



2025年7月7日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 東海ユニオン「第 3 4 回定期大会」

# 組織に変化を生み出し、さらに強化させていく運動方針を確立！



J R 東海ユニオンは7月4日、名古屋市において、第34回定期大会を開催し、新体制を確立するとともに向こう1年の運動方針を決定した。

冒頭、執行部を代表して尾内裕昭中央執行委員長は、『不確実性の高い時代、いかなる困難や変化に直面しようとも、「将来宣言」に基づく労使関係をより健全で強固なものすることを大前提に、組合員一人ひとりが主体性を発揮のうへ、労働運動の営みを繰

り返し、「将来にわたる会社の発展と組合員・家族の幸せ実現」に向け突き進もう』と力強く呼びかけた。

J R 連合からは上村会長が参画し、安全、産業政策、労働政策、組織課題、政治活動の主要課題に触れ、それぞれの課題を連動させて解決していくことの重要性を訴えた。とりわけ、現在検討が進んでいる労基法改正の動きに言及しつつ、労働組合の存在意義として、労働運動こそが民主主義の基盤を支えるものだとし力強く訴えた。J R 東海会社からの来賓である武田健太郎副社長からは、健全な経営には労働組合の存在が必要不可欠であり、将来宣言に基づく労使関係をより強固なものにしていく旨の挨拶があった。

議事では、「安全の確立」「組織の活性化」「ハートフルカンパニーの実現」を柱とする運動方針が提起され、24名の代議員等から、安全、業務課題、各取り組みに関する発言に加え、組織強化に資する新たなプラットフォームの設立や次期中期目標への準備に対する発言など、55件の意見・要望が出された。執行部答弁後、総括答弁に立った今井孝治書記長は、「コロナ禍も制度の見直しも、組織強化に繋げてきた。労働組合の意味・意義・価値・機能・可能性を共有し、変化を乗り越え、さらに強化させていこう！」と決意を述べ、すべての議案が採択された。

本大会では、長年ユニオン運動を牽引してきた尾内委員長をはじめ計6名の役員および1名の会計監査員が退任した。性別、所属、系統、採用種別などバランスのとれた新執行部を確立し、鎌田隆司中央執行委員長の団結がんばろうで締めくくった。



勇退された役員の皆さん



新体制の皆さんと、代表挨拶をする鎌田新委員長